



第3回スポーツ大会、レクリエーションゲームの様子



南スーダン 国民の結束を促す全国スポーツ大会の開催

2017年10月～2019年3月

長引く内戦の影響による民族間の緊張や不信感を抱える南スーダンでは、国民の融和が喫緊の政策課題となっています。JICAは南スーダン全国スポーツ大会「国民結束の日」(National Unity Day)の開催を中心に、文化・青年・スポーツ省(以下、スポーツ省)のスポーツを通じた平和促進の取り組みを2016年1月より支援しています。第3回大会(2018年1月)には全国12地域から310名、第4回大会(2019年1月)では334名の選手が参加し、男子サッカー、男女陸上、女子バレーボール競技を開催しました。スポーツにより国民間の多様性の尊重や民族・社会的融和、平和意識の醸成を促進し、紛争が再発しにくい社会の実現を後押しする好例であり、JICAはこれからも南スーダンにおけるスポーツを通じた取り組みを継続していきます。

～活動や目指す成果～

広がる「平和」への思い、心の癒し

大会後、選手や観客から様々なメッセージが寄せられました。ある若者は、国民結束の日が外の世界と交流するきっかけとなり避難民居住区での生活から社会復帰を果たしました。ある若者は、「今こそ許し合う時。同じ国の国民として、明るい未来に目を向けていこう」と語ります。恐怖心の除去、心の癒しは紛争から未来に向かうために欠かせません。

「平和と結束」の実感、「平和大使」として各地域での主体的な平和活動に期待

選手は競技参加だけでなく、平和構築ワークショップやレクリエーションゲームを通じ、大会のテーマである「平和と結束」について学びました。また、10日間に亘り寝食を共にしたことで、異なる地域・部族の若者が友人となり、大会後も交流を続けています。ある若者は所属コミュニティで自主的に平和イベントを開催しています。

女性のエンパワメントとジェンダー平等

女子が公共の場で活躍する機会は限られています。女性の参加率向上を目指し、第3回大会から女子バレーボールを競技種目に追加しました。南スーダン発祥の女子スポーツ「ボルボル」も、「平和・文化デー」の中で披露しました。

選手選考の包摂性・公平性向上

選手選考のルールや基準を明確にし、地方での予選会により公正な選手選考を推進することで、選手選考の公平性の意識を浸透させました。公正なルールに則った大会運営に貢献した審判も表彰の対象としました。

広がる「国民結束の日」サポーター

「国民結束の日」協賛者獲得の活動を行ない、第4回大会では、12の国連機関や民間企業が大会の趣旨に賛同し、資金協力や物資協力が実現しました。多くの機関が国民結束の日の意義に賛同し、支援の輪が広がっています。